

## 第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年 9月13日(金) 5校時  
児 童 男子3名 女子6名 計 9名  
指 導 者 八幡 泰史

- 1 単元名 作品の世界を深く味わおう  
教材名 「やまなし」  
<資料> 「イーハトーヴの夢」 (光村図書6年 創造)

### 【指導事項】

- ◎ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 読(1)イ
- ◎ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 読(1)エ
- ◎ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 読(1)オ
- ◎ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。 読(1)カ

### 【関連する学習技能】

- ② 題名と作者の思いとの結びつきを考えることができる。
- ④ 人物の行動の変化や、心情の転換点を読み取ることができる。
- ⑤ 人物の心情と重なり合う情景描写や作者の思いに結び付く表現方法の工夫に気づくことができる。
- ⑥ 作者の思いをとらえて、自分の考えを述べることができる。
- ⑦ 学んだことを生かし、幅広く読書することができる。

### 【言語活動】

- ◎ 宮沢賢治の作品を紹介し合うという活動目標のもと、作品の内容を読み取り、自分の考えをまとめること。

## 2 単元について

### (1) 児童について

児童は1学期教材「カレーライス」の学習において、「登場人物に自分を重ね合わせてその言動や心情を読んだり、人物相互の関係から登場人物の心情をとらえたりすること」を目標に活動をしてきた。その際に主役である「ぼく」と相手役である「父」との関係をとらえ、「父」に対する「ぼく」の心情の変化に気づくことができた。主役の変化を通して作品の構成をつかみ、そのことで作者は何を伝えたいのかをとらえる力については、まだまだ不十分である。さらに作者自身の生き方や考え方にふれることで作品を読み深めることや他の作品と重ねながら読むことについても、まだまだ経験不足である。

### (2) 指導にあたって

1次では、「やまなし」の作品推薦文を提示し、最終的には自分の力で他の賢治作品の推薦文を書くことを知らせる。  
2次の学習活動として、「やまなし」の内容を読み進めていく。その際に推薦文を的確に書きまとめるために、読み取りの視点を絞り込んで内容を読み取っていく。この読み取りの視点を他の賢治作品を読み取る際にも活用できるようにしたい。本単元では物語の設定、登場人物の把握、転換点の限定、主役にあたる登場人物の転換点の前後における変化、作品を通して作者が伝えたいことに絞って読み、読み取った内容を推薦文のパーツとして書きまとめながら学習を進めていく。さらに作品に対する自分の感想を加え、一連の推薦文の形として仕上げるようにしていきたい。また、資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方、考え方にも触れさせる。賢治の人生のどの時期に「やまなし」が書かれたのかを検討することで、作品に盛り込まれた作者の意図にも思いをめぐらせたい。  
3次の学習活動においては、並行読書を進めている他の賢治作品について内容を読み取り、作品の推薦文を書き、お互いに交流させる。この際「やまなし」の推薦文を書くまでの学習活動を活用し、自分の力でまとめることができるようにさせたい。

## 3 単元の目標

- ◎ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することができる。 読(1)イ
- ◎ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。 読(1)エ
- ◎ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 読(1)オ
- ◎ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むことができる。 読(1)カ

#### 4 単元の評価規準

国語への関心・ 意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知らうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二つの場面を比べたり、作者の考え方や生き方と重ねたりして読むことで、作品の特徴や作者の思いをとらえている。</li> <li>場面の様子をとらえ、作品の中で使われている優れた表現を味わっている。</li> <li>本を読んで考えたことを交流し合い、自分の考えを深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の構成について意識を持っている。</li> <li>物語を読んで、語感や言葉の使い方に対する感覚について関心を持っている。</li> <li>比喩などの表現上の特色について、意識している。</li> </ul>

#### 5 指導計画（全13時間 本時7時間目）

次時	主な学習活動	評価規準（☆評価の方法）
1 つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「やまなし」の学習を通し、作品を推薦する文を書くことを確認する。また、その学習を生かし、他の賢治作品についての推薦文を自分の力で書くという学習課題を設定する。</li> </ul>	（関） 宮沢賢治の複数の作品を進んで読み広げようとしている。 ☆観察
とらえ・ふかめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「やまなし」の最初と最後の文から物語の舞台となっている情景を想像する。</li> <li>○ 「やまなし」の登場人物を把握する。</li> <li>○ 推薦文パート①を書く。</li> </ul>	（読・言） 物語の設定をとらえている。 ☆発言・ノート
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「五月」の転換点を限定し、かへの兄弟の気持ち、行動の変化を検討する。</li> </ul>	（読） 転換点をとらえ、かへの兄弟の変化をとらえている。 ☆発言・ノート
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「十二月」の転換点を限定し、かへの兄弟の気持ち、行動の変化を検討する。</li> <li>○ 推薦文パート②を書く。</li> </ul>	（読） 転換点をとらえ、かへの兄弟の変化を読み取っている。 ☆発言・ノート
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「五月」「十二月」の様子を色、光、音、においに焦点をあてて比較する。</li> </ul>	（言） 色、光、音、においのイメージから「五月」「十二月」を比較し情景をとらえている。 ☆発言・ノート

と ら え ・ ふ か め る	6	○ 「五月」「十二月」の出来事を比較し、それぞれの様子を一言でまとめる。	(読) 「五月」「十二月」を読んで、感じたことや考えたことをまとめている。 ☆発言・ノート
	7	○ 題名を検討し、作品を通して作者が伝えたいことを考える。	(読) 題名を検討し、作品を通して作者が伝えたいことを考えている。 ☆発言・ノート
	8	○ <資料>「イーハトーヴの夢」を読み賢治の考え方・生き方について話し合う。	(読) 賢治の生き方や考え方をとらえている。 ☆発言・ノート
	9	○ 作品を通して作者が伝えたいことを再検討しながら考える。 ○ 推薦文パート③を書く。	(読) 作品を通して作者が伝えたいことを自分なりにとらえている。 ☆発言・ノート
	10	○ 作品に対する自分の感想を書く。 ○ 推薦文パート①～③と自分の感想を合わせ、「やまなし」の推薦文としてまとめる。	(読) 作品に対する自分の感想を加えて、「やまなし」の推薦文をまとめている。 ☆発言・ノート
つ か う	11	○ 並行読書をしてきた他の賢治作品について、推薦文を書く。	(読) 他の作品を読んで、その特徴や作者の意図をとらえている。 ☆ノート
	12		
	13	○ 推薦文の交流会を行う。	(読) 互いの発表を聞きあい、感想をもっている。 ☆発言・ノート

## 6 本時の指導

### (1) 目標

- 作品の題名を検討することで、「やまなし」を通して作者が伝えたいことを考えることができる。

### (2) 具体の評価規準

A	B	C 支援
作品の題名がなぜ「やまなし」なのか、その理由を自分なりに考えている。	自分ならこの作品にどんな題名をつけるのか、また、その理由についても自分なりに考えている。	「五月」と「十二月」を比較した内容をノートや掲示で確認させ、題名を自分なりに考えさせる。

(3) 本時の展開

過程	学習活動 ●主な発問	○期待する児童の反応	指導上の留意点
つかむ 5分	1 学習課題を確認する。  題名を検討し、賢治が伝えたいことを考えよう。		・ 学習掲示で確認できるようにしておく。
深める	2 題名を検討する。 ● 自分なら、この作品にどんな題名をつけますか。  ・ 自分の考えをノートに書きましょう。  ・ 書いたペアから対話しましょう。  ・ 発表しましょう。	○ かにの兄弟 ・ 主役がかにの兄弟だから ○ かわせみとやまなし ・ 五月と十二月の出来事だから ○ 二枚の青い幻灯 ・ 賢治の世界だから ○ 五月と十二月 ・ 物語の舞台だから	・ 自分なりの意見でよいので、しっかり根拠を述べるようにした上で対話に入るようにしたい。 ・ 対話をする中で、自分の考えの根拠をより明確に言えるようにしたい。 ・ 対話によって聞いた相手の意見を、他の友達に伝えることができるようにしたい。
35分	3 作者が伝えたいことを考える。 ● 賢治は、なぜ題名を「やまなし」にしたのでしょうか。  ・ 班で話し合いましょ。う。  ・ 発表しましょ。う。  ・ 自分の考えをノートに書きましょ。う	○ 五月は怖くてマイナスのイメージだけど、十二月は楽しみがあってプラスのイメージだから。 ○ かわせみ事件よりやまなし事件を強調したいから。 ○ 十二月の世界を強調したいから。	・ 自分たちがつけた題名やその理由と「やまなし」という題名を比べる。 さらに、なぜ作者は十二月だけに登場する「やまなし」を題名にして強調したのだろうか、という課題意識を持たせたい。
まとめ 5分	4 学習をふりかえる。 ● 友達の考えを聞いて、どう思いましたか。  5 次の時の学習内容について知る。 ● 次の時間は賢治の考え方を探るために<資料>イーハトーヴの夢を読みましょ。う。		・ 自分の考えが広がったり深まったりしたか意識させたい。

(評価) B  
自分ならこの作品にどんな題名をつけるのか、また、その理由についても自分なりに考えている。(ノート・発言)

(評価) A  
作品の題名がなぜ「やまなし」なのか、その理由を自分なりに考えている。(ノート・発言)

(4) 板書計画

<p>○ 五月は怖い マイナスイメージ</p> <p>○ 十二月は楽しみ プラスイメージ</p> <p>○ かわせみ事件より やまなし事件を強調</p> <p>○ 十二月の世界を強調</p>	<p>◎ なぜ題名を「やまなし」にしたのか？</p> <p>◎ どんな題名？</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ かにの兄弟</li><li>○ かわせみとやまなし</li><li>○ 二枚の青い幻灯</li><li>○ 五月と十二月</li></ul>	<p>めあて 題名を検討し、賢治が伝えたいことを考えよう。</p>	<p>やまなし</p> <p>宮沢賢治</p>
---	---	---------------------------------------	-------------------------

※ 推薦文イメージ

<p>④ 作品に対する自分の感想</p>	<p>③ 作品を通して作者が伝えたいこと</p>	<p>② 物語のクライマックスと主役のクライマックスの前後における変化</p>	<p>① 物語の設定</p>	<p>推薦文イメージ</p>
----------------------	--------------------------	---	----------------	----------------